

第31回全国健康福祉祭とやま大会 ねんりんピック富山2018

監督・選手 インタビュー

1面に続き、大会参加者に登場してもらった。

初出場で銀・銅を獲得

水泳の宮城県代表・守屋徳衛さん(63)はねんりんピック初出場にして個人種目60〜64歳の部で25メートル背泳ぎが銀、50メートル背泳ぎが銅と2つのメダルを手にした。特に2位になった25メートルの部は「スタート直後の『バサロキック』(潜水での泳法)がイメージ通りにできた」と手応えを語る。

水泳を始めたのは30代。痛めた腰のリハビリが目的だったが「泳いだ後の爽快感にはまった」と続けてきた。本やテレビ、他の選手の泳ぎを参考に、

技術は自己流で磨いた。

2018年春に行われた「あぶくまマスターズ水泳競技大会」「日本マスターズ水泳短水路大会仙台会場」で優勝し、宮城県代表に選ばれた。ねんりんピックでは他県の選手との交流や、県代表仲間との観光も楽しい思い出で「また参加したい」と意欲を見せる。

定年退職し、再任用で警察官として働きながら趣味で運動をしている。最近ではゴルフにも夢中で「毎日スイングしている」と笑顔で話す。



▲水泳の宮城県代表選手と一緒に記念撮影する守屋さん(写真右)



水泳

とくえ 守屋徳衛さん(宮城県チーム)



左から渡邊行幸さん(71)、トヨノさん、鈴木さん、鈴木ヤヨさん(77)、大本策衛さん(80)、大宮三千男さん(69)、千代子さん



ゲートボール

丹野トヨノさん(川崎町桜の会)

交流や観光も楽しい思い出

今大会が初出場の「川崎町桜の会」は1勝2敗で予選リーグ3位。目標だった決勝トーナメント進出を逃した。宮城県出場者の最高齢者、丹野トヨノさん(87)は「初出場ながら、誰よりも冷静にプレーしていた」とメンバーは口をそろえる。

丹野さんがゲートボールを始めたのは約15年前。桜の会は今年4月末に出場が決まってから週2、3回、試合形式で約3時間の練習を重ねてきた。練習の送迎や今大会の出場は、義娘の丹野千代子さん(67)がサポートした。チームのモットーは「楽しく和やかに」。会長の鈴木正一さん(78)は「今も現役でプレーされていることがすごい」と語る。トヨノさんは「会長が穏やかだからついていけた」と話す。「気軽に話せる仲間が得られたこと、健康的に長く続けられるのが競技の魅力。大会ではいろいろな県の人と交流もできた」と充実の表情を見せた。

試合終了後は、白川郷など世界遺産を観光したのも楽しい思い出だ。



実力を存分に発揮し快勝



卓球

ちよれい宮城

足並みそろえ予選快勝

1試合につき、年齢別のシングルスと男女混合ダブルスの計5競技で対戦した。宮城県からは、県内外の大会で優勝経験があるメンバーら8人が参加。快勝で決勝リーグに進み、優秀賞に輝いた。別々のチームに所属するメンバー。大会に向け、今年4月から月に一度集まって練習し、足並みをそろえてきた。「チームのコンディションは抜群だった」と監督の半澤伝さん(67)。その言葉の通り、1次2次の予選リーグは4試合中3試合を5対0の完全勝利で飾った。

3回目の出場となった猪野弘子さん(66)は「一番きれいな色のメダルを取りたかった。もっと練習が必要」と悔しさをにじませ、初参加の加茂尚子さん(62)は「悔しさはあるがとても良いチームで楽しかった。全国のベテラン選手のプレーをすぐそばで見ることができ勉強になった」と振り返った。次に代表に選ばれるとすれば3年後。半澤さんは「60代の若手、選手の期待しつつ、私もいつかは優勝に貢献したい」と勝利への熱意をのぞかせた。